

肥田町ボランティアサークル 「ひだまり」が結成されました

ボランティアサークル運営委員会

今日の大変な社会環境にあつて、自分たちの町は自分たちで守ろうの気持ちで膨らませて、「住み良い町肥田町、安全で安心の出来る肥田町」への環境づくりの一助としてお役に立てればの願いから、この度自治会の組織の中にボランティアサークルが誕生いたしました。稲枝地区においても既に相次いで町ボランティアサークルが結成されており、それぞれが課題を模索しながら活動が始められています。この度のスタートに際しても先輩の普光寺町からのアドバイスも参考にさせていただきます。

「私の出来る時間に私の出来ること」を皆で重ねあわせて、一人では小さい力ですが、少しでも多くの人の力を借りればそのサービスの温かみも早く、そして熱く伝わり、自治会からの熱心な呼びかけで多くの方の参加をいただきました。早速に福祉の心づくりに入っていかうと、高齢者、独居家庭と参加ボランティア委員の方に13項目のアンケートを求めまして、何が要望されているか。またこれらの項目を通してボランティアとしてどんなことを提供出来るかを相互に理解をはかりました。その上でサークルとして「私たちにできること、皆さんに喜んでもらえること」と話し合いを進め、ひとつひとつ取組んでまいります。高齢者の元気の交歓の部屋「和み」の集いの企画もその一つとし、この秋後半にしっかりとした内容で開きます。また、案内のありましたアルミ缶の自主回収の活動は、リサイクルの円滑化と福祉関連方面への助成応援にもお役に立ちたいと始めて参ります。また民生委員さんの日常活動も支援して隙間を作らない様に努めたいと思っています。

まだまだスタートしたばかりで色々課題もありますが、何と申ししても、ボランティア活動は町民皆さんの日常での、ちょっとした見守りや、助言などの温かい目と手助けが重ねられて、いつまでも笑顔の交歓が続けられてまいります。一層のご理解ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

彦根市消防本部による

救命講座がひらかれた

自治会

自治会では災害対策実習の第二弾として、彦根市消防本部の協力を得て8月11日に救命講座を開催しました。

内容としては、大出血時の止血法をはじめとして心肺蘇生法など応急の救命手当ての基礎実技の講習を受けました。また異物が口に詰まったときの除去処置、骨折したときの応急手当の知識、子どもの場合と幅広く講習は3時間にもわたりました。

40名を超える町民の参加者が、実際に一人ひとりが前に出て細かい実演を真剣に行い会場は熱気に溢れ、時間を感じさせませんでした。社会環境として高齢者への対応ばかりでなく、子供たちなどの不慮の災害も増えて来ている今日だけに、参加の皆さんの目も真剣そのものの輝きが見られました。終了後各人に普通救命講座修了証が配布されました。

緊急の時の応急手当は戸惑いもあり大変ですが、ちょっとした知識をもつ、もたないが大きく左右します。今回参加を失された方は是非次の機会をご利用いただければと存じます。



平成14年度福祉講座の開催

去る7月5日、彦根市介護福祉課の高田みき保健士さんをお招きして、今回は「痴呆性高齢者を地域でささえるために」をテーマに勉強会を開きました。

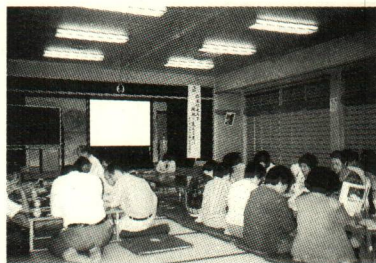
肥田町は、彦根市の平均高齢化率を10%も大きく上回る26.5%の超高齢化の町であり、老人福祉への関心の高さを反映して多くの町民の方々の参加をいただきました。

痴呆は、今日の近代社会では既に65歳以上で7%、85歳以上では25%に達しており、その症状は物忘れ、特に昔のことは記憶しているが最近のことから忘れていく。次いで、することがわからないこと。そして見ていることがわからないこととの症状と言われています。ここでは色々の体験の世界を通して、痴呆性の方へのケアでこんな見守り方(安心を与えるほほ笑み、心地よく適度の刺激ある環境づくり等)のプラスのケア面、言動が及ぼすケアへのマイナス面の注意事項等、日常生活での学ぶべき点が多くありました。

またビデオ「痴呆性と共に生きる」を見せてもらい、その人の今までにやってきた道程で、その人の持つ価値観を大切に、行動を残しておいてあげること、生きる喜びをもたせることも大切だと感じました。特に心のケアの大切さが伝わりました。

肥田町では、この度、独自のボランティアサークルが誕生したところでもあり、今回の講座の開催はその点で大きな意義をもたらしてくれたと思っています。今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

自治会福祉部 藤野隆司



〈緑風〉

「まちづくり」に思う

稲枝町 元持 亘

に、汗まみれ、泥まみれになってがんばる人の姿はとても美しく思ったように思えます。
仕事を終えると、どの人の顔もほっとした表情にかわり、「ゆい」から豊かに流れる「大すい川」に沿って、家路を急ぎます。帰るとすぐに、いつもより早くわかしてある風呂へとびこみ、1日の疲れをとつたものです。

○大すい川掃除

ゆたてに続く水の流れをよくする行事です。川の土手から流れ落ちた泥あげ、流れをじゃまする草かりや木の枝打ち
仕事より、なにより楽しかったのは、肩まで水につかりながらの手づかみの魚とり。土手の上では、子供達がたも網と入れ物を持ってうろうろしています。大人のつかまえた魚をもらったり、泥水で鼻浮きする小魚を網ですくうためです。大人達は、仕事の間に魚つかみをしてのんびりか、魚つかみの合間に川掃除をしているのかかわらないくらいです。

○墓掃除

今でこそ、墓は先祖が眠る神聖な場所として美しくなければと思うけれども、当時はどうしても尻込みしてしまいました。墓の土や草にさわることすら気持ちいいものではありませんでした。おまけに、石碑の奥や裏側には「死人花」(まんじゅしゃげ)が密生し、石碑にはとてもくさい、くさい草が巻き付いていました。後に、このつる草は、「へくそかずら」という名称であることを知りました。「へくそかずら」なるほどくさいはずす。

○ゆたて

水田の米作りには絶対必要な水を引くため、宇曾川の水の流れをせき止めるのです。場所は宇曾川の上1牛が瀬。早朝から村中総出の大仕事です。俄に砂利をつめる人、運ぶ人、ゆに積み上げる人、また、前年の大雨等で損壊した「ゆ骨」を直す人、杭を打つ人。楽な仕事は一つもありません。どれもこれも、大変な重労働です。しまいに手、足、肩、腰が痛くなり、ばんばんに張ってきます。

○村中総出の行事 三題

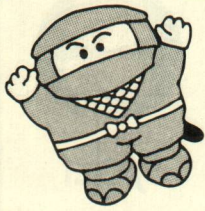
「まちづくり」は、時代とともに変わります。「変わるもの・変えるもの」と「変わらないもの・変えてはならないもの」があるはず。時代を読み、未来を見据えて、思い切った変えることも大切ですが、変えてはならないものは、次代を担う子供たちにきちっと伝えることが今を生きる大人の責任ではないかと思えます。

○ゆたて

肥田町の皆様方のご健康とご多幸、町の益々のご発展を祈念申し上げます。

私の夏休み

6年 伊関悠佳



私の住んでいる町の夏休みの始まりは町旅行です。今年は甲賀の「にんじゃ村」に行きました。

この町旅行は、町の一年生から6年生までと、付き添いの人、町の役員さんなどが参加しました。私たち6年生にとっては最後の町旅行でした。「にんじゃ村」では、石垣のぼったり、池のような所を忍者が使う道具を使って渡るというような事をしました。池を渡るのはほとんどの人がやらなかったです。

その他にも忍者がしそうな色々なことを見たり、実際にやってみました。私は、石垣のぼりを友達がしているのを見て恐々で登り、途中で恐くて下りようとも思いましたが、頑張って登りきりました。町の旅行は、甲賀の「にんじゃ村」と「マーガレットステーション」に行きましたが、どちらもとても楽しく良い夏休みを過ごすことが出来ました。

私の夏休み

6年 成宮まゆ

私は6年生なので、町旅行の参加は今年で最後となります。最後の町旅行は、忍者村と愛東マーガレットステーションでした。

忍者村では、忍者の修行もしました。石垣のぼりや、水くもわたりなどいろいろありましたが、私は水くもわたりはしなかったけど、やった人を見て落ちなくてよかったなあと思いました。

その次にマーガレットステーションでジェラトを食べました。食べ終わってから、ゆかちゃんとききちゃんとお店を回りましたが、ハーブティーや花のリースがあってかわいかったです。

私の小学校生活最後の夏休み、とても楽しい思い出ができました。



地蔵盆風景(こども会)

私の夏休み

6年 中山彦人

僕がこの夏休みに心に残ったことは、24日に行った四年生から六年生の親子で汗する会です。僕はもう六年生で、これで汗する会に行くのも終わりなので、頑張って掃除しようと思いました。

まず始めは、中庭の掃除でした。僕の弟も三年生で本当は来なくてもいいはずなのに、それなりに頑張って掃除をしていました。

大変暑かったので、休憩の時飲んだお茶がおいしかったです。その後、一、二年生の廊下、教室などの掃除をしました。一年生、二年生がしっかりと新学期が迎えられるように、きれいに掃除しようと思いました。廊下の端から端までふいていたり、ロッカーの中もふいたりしながら終わるまで掃除しました。

新学期には運動会もあるし、音楽会も今年で最後なので頑張って出来るようにきれいに掃除してほしいです。僕も掃除を出来るだけしました。来年の四年、五年、六年生の人もきちんと掃除をしてほしいです。



第40回体力づくり彦根市学区スポーツ大会

稲枝東学区代表でグラウンドゴルフ 肥田町チームが初出場、善戦

7月14日開催された第40回体力づくり彦根市学区スポーツ大会は、ラージボール卓球、ビーチボール、ソフトボール、そして、グラウンドゴルフの種目別に、17学区対抗の競技会です。

主催は彦根市体育振興会協議会、彦根市教育委員会、彦根総合運動場陸上競技場、多目的広場、金亀公園野球場に分かれての競技ですが、最初は、各学区のプラカードと学区旗を掲げての入場行進に始まり、国旗の掲揚、国歌斉唱、滝一朗会長挨拶に続き彦根市長、川崎市議会議長の言葉等、整然とした開会式が開かれました。

参加した肥田町グラウンドゴルフチームの選手の方も、敵かな大会ムードに感激、そして芝の映える美しい大競技場でのプレイと、大変に素晴らしい思い出として胸に刻まれました。

グラウンドゴルフは、稲枝東みずほクラブの役員、門脇会長さん、滝信造さん、藤田安雄さんが責任者とスコアラーを務めていただき、今回は肥田町のグラウンドゴルフのメンバーの全員が学区選手代表として出場、会の規定で肥田だけの男性2女性4の構成で2チームで参加、挑戦しました。日頃鍛えた腕前に加えて大きい声での励まし合い、チームワークの良さに、担当の他町のスコアラーの方も驚き感心しておられました。皆さん年齢を全く感じさせない鋭く、美しい球筋での健闘ぶりが印象的でした。(ブロッコ二位)

また、当日ソフトボール部門で稲枝東学区が優勝しておられます。大変に蒸し暑い日のプレイでしたので翌日、皆さんに体調を伺ったところ、全員が爽やか元気で健康への自信と、更にグラウンドゴルフへの情熱を高められ心強く嬉しく感じました。またこのパワーを町のためにも活かしたいと思えました。



おふくろの味

昆布巻きの煮方



(おふくろEさん)

現在の食生活は非常に幅広くなってきましたが、昔は家で色々と手作りの煮物を作った、食卓にぎわしてありました。祖母から母へ、子から孫へと伝えられてきた「おふくろの味」を作る人も少なくなってきた、さみしい事です。私もようやく年を重ねて時間も出来、作れるようになってきました。色々勉強しながら自分の味に挑戦しております。今回は、にしんとこぼうを芯にした昆布巻きの煮方を紹介したいと思います。

材料

昆布	幅の広い厚いもの 長さ70cmぐらい	3本ほど	しゅろの葉	少々
にしん	3~4本		白砂糖	約200グラム
こぼう	長いもの	1本	濃口醤油	160cc
			酢	50cc

(作り方)下準備として

- 1、かたいにしんは米のごぎ汁に一晩つける。やわらかくなったら4センチ位に切る。
- 2、こぼうも4センチ位の拍子切りにしてごぎ汁につけておく。
- 3、昆布はふきんに酢をつけ、幅を広げるようにして砂やほこりを取っておく。
- 4、その昆布を長さ10センチ位に切って、ボールに入れ酢をふりかけ5時間位おく。時々まぶしておく。幅が広がりやわらかくなる。
- 5、しゅろの葉を洗って2センチほどにさげておく。
- 6、にしんとこぼうを芯にして昆布で巻きしゅろを巻く。昆布のふくらむ分をみて結び目をしっかりとくっつけること。また、昆布の幅が足りない時2枚重ねて巻いてもよい。

(煮方)鍋は深めの落とし蓋の出来る蒸し鍋の方がよい

- 1、鍋に昆布が浮く位たつぷりの水を入れ、落とし蓋をして強火にかけ沸騰したら弱火にして2時間煮る。アクをすくい取る。その間に煮汁が少なくなったら熱湯を加えて、いつも昆布巻きがたつぷりつかつていること。
- 2、昆布が軟らかくなったら火を止め2時間おらす。煮汁がさめたら昆布巻きをザルにあげ、この煮汁は捨てる。
- 3、煮汁が切れたら昆布巻きがたつぷりつかる位の湯に分量の砂糖、濃口醤油を入れて、一度沸騰させ昆布巻きを入れ煮る。
- 4、落とし蓋をして中火で30分、弱火で1時間煮る。火を止めてそのまますくって置く。出来上がりです。